

第2回瑞浪市市民まちづくり会議 会議録

■日 時 令和6年2月2日（金）午後7時～

■場 所 瑞浪市役所西分庁舎1階会議室

■出席者 【出席委員】

高野雅夫 委員 後藤誠一 委員 鈴木圭子 委員 小倉弘次 委員
足立弘文 委員 渡邊俊美 委員 板垣真由美 委員 本荘恵子 委員
中山陽翠 委員 石川敏美 委員 小野由美 委員

【事務局】

小木曾昌弘（まちづくり推進部長） 加藤博史（市民協働課長）
正木麻子（市民協働課まちづくり支援係長）
中箴高弘（市民協働課まちづくり支援係）

■議 事

1. あいさつ

会 長 こんにちは。本日が今年最初の会議となります、よろしくお願いします。私事ですが、風邪をこじらせまして声が聞きづらいかと思いますが、ご容赦頂きたいと思います。病院で検査した結果、コロナでもインフルエンザでもなかったということで安心しております。しかし、全国的にコロナ、インフルエンザともに増えてきている状況でありますので、委員の皆様も気を付けて感染予防して頂きたいと思います。

今年は元旦から能登の方で地震があったため、まだたくさんの方が避難されているということですが、住民の方々がたくさんのボランティアの方々に支えられながら生活される様子が見えます。その中でも、地域のビニールハウスの中で周辺の人と暮らしてみえる姿がテレビに出てきますが、皆さんが助け合い、自分のところにあるものを持ち合いながら生活してみえる様子は共助に繋がっていると思います。このまちづくり基本条例の中にも市民の責務や役割がありますが、自分たちでできることは自分たちでやるんだという気持ちが能登の方でも行われているのだと思います。

さて、本日の会議ですけれども、今日の会議からが実際の取り組みに対する検証ということになります。基本条例に関する取り組みの検証ということで中々難しいかとは思いますが、委員の皆様には慎重に審議していただきたいと思います。

なお、今日一つ目の審査がまちづくり会議の主管課であります市民協働課の取り組み事業を検証するということになりまして、言いにくいこともあるかと思いますが、忌憚のない意見をいただきながら今後の取り組みに生かしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

事務局 ありがとうございます。

ではここで、本日の会議の成立についてご報告させていただきます。委員11名中11名にご出席いただいておりますので、本会議の成立要件である過半数を満たしております。それでは、これより、渡邊会長に会議を進行していただきます。渡邊会長、よろしくお願いします。

2. 議事

(1) 検証する取組みの決定（アンケート結果より）

会 長 それでは、会議を進行してまいります。

本日は2つの議題がございます。委員の皆様には、慎重な審議をお願いいたします。まず、「(1) 検証する取組みの決定（アンケート結果より）」について、事務局より説明をお願いします。

事務局 本日は、皆様からいただいたアンケートの結果を参考に、次回以降、この会議で検証していく取組みを2つ決めさせていただきたいと存じます。

それでは、資料No.1「アンケート集計」をご覧ください。アンケートの集計結果が一番右集計の欄になります。この結果を踏まえ、まずは事務局の案をご提案させていただきますので、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

まず、一つ目として、一番集計が多かった 4.「子ども及び若者のまちづくりへの参加促進（青少年育成活動）」です。こちらはすでに検証済みではありますが、今回から行政からだけでなく、連携している市民や団体の意見を聞き検証することとしていますので、前回と違った観点からの検証がしていただけるのではと思います。

次に、二つ目ですが、集計結果では3件の取組みが3つありますが、2.「まちづくり推進の活動支援」については、前回検証済みであること、3.「地区公民館指定管理者制度の運用」についてはこれまでに検証されていませんが、担当課及び連携団体が一つ目の「子ども及び若者のまちづくりへの参加促進」と同一であるため、8.「企業・大学等との連携」を検証していただきたいと思います。この取組みは、第18条の市民参加の促進、機会の提供に基づく取組みとなっていますが、今回検証を予定している他の取組みに共通している、第5条の市民がまちづくりの担い手として、市政に参加する権利にも関連する取組みになります。

以上のことにより、今回検証していただく取組みを、4.「子ども及び若者のまちづくりへの参加促進（青少年育成活動）」と、8.「企業・大学等との連携」の二つを提案させていただきます。なお、この二つ以外に、本日検証いただく「シティプロモーション動画等制作事業」と「地域計画策定支援事業」は市からの提案取組として検証をしていただきます。以上、説明とさせていただきます。

会 長 ありがとうございます。ただいまの説明に対し、ご質問やご意見はありますか。

《意見なし》

会 長 それでは、事務局の提案のとおり、検証する取組みを選定することとしてよろしいか。

《異議なしの声あり》

会 長 ありがとうございます。

(2) 取組検証 シティプロモーション動画等制作事業

1) 担当課より説明

2) メイキング映像視聴

3) 本事業に参加した市民へのインタビュー

会 長 続きまして、(2) 取組の検証に移ります。検証の方法などについて事務局より説明を、担当課である市民協働課より事業の説明をお願いします。

事務局 <資料に基づき説明、メイキング映像視聴、参加市民インタビュー>

4) 質疑応答

委 員 2回のワークショップで原案を作られ、脚本されたということですが、脚本に反映されなかったような部分はあるのでしょうか。

説明者 原案そのままということはできなかったため、原案ではミュージカル化石博物館という名前から想定されるように博物館の化石自体が踊り出すというものでした。しかし、実際に化石を躍らせるというのは難しく、億単位のお金が必要となってしまうため、何とかそれを映像にしたいということでぬいぐるみになった、ということがありました。

委 員 映像を見て、化石というキャッチフレーズが忘れられないものでした。若者の発想・考え方を取り入れたPR動画ということでしたが、瑞浪の化石は、ワークショップの中で若い高校生たちは具体的にどう思っていたか教えていただきたいです。化石という話はすぐに出てきたのか、市から提案されたのかどのようなようでしょうか。

説明者 ゼロからではなかなか意見が出ないのではないかとということで、脚本を書いていた監督と事前に市内を回りました。何が瑞浪の魅力になるのかということで考えていただいた中で、他と違うのは化石ではないかとということで、ワークショップの中で化石という題材を出させていただいた。

委 員 市民の方が参加されたということが大切だと思いますが、参加されて再発見した瑞浪の良さや課題など、参加されたことで気付かれたことがあれば教えてください。

参加市民 高校生が参加してくれましたが、高校生の発想は大人に無いものだと感じました。発想が面白く、いくつかアイデアを出す中で選ばれやすい傾向でした。市のシティプロモーションには非常に有効だと感じました。

委 員 パレドパラドキシアの俳優さんが喋られているのは東濃弁だと思いますが、どなたかが指導されたのでしょうか。

説明者 指導というほどではありませんが、市の職員の方で脚本の言い回しを確認、修正した上で直接イントネーションをお伝えしました。普通に話す話し方をお伝えしました。

委 員 とても馴染みやすいイントネーションだったため、どなたかに指導されたのかと思いました。ありがとうございました。

委 員 Y o u t u b e にはコメントが上がっていますか。

説明者 瑞浪市やればできるじゃん、パレドパラドキシアをバズらせるにはバサラカーニバルに登場させて関連付けていくと奇跡を起こしそう、などのコメントが20件以上ありました。

委員 取組説明シートに市の魅力を発信するPR動画と書かれています。ご自身の考える市の魅力と、それが今回の動画で紹介できるものとしてできあがったとを感じるか教えていただきたいです。

参加市民 プロモーションとなると、もっと瑞浪市の魅力を盛り込んだ方が良いのではないかと感じました。今回は化石にテーマが絞られていたので、ゴルフのまち、住みやすいまちなど、すべてが盛り込まれているという印象はありませんでした。化石を印象付けるという意味では十分だと思います。

委員 化石は瑞浪市のものであると感じられますか。

参加市民 化石が瑞浪市のすべてというものではありませんが、一つの魅力かなと感じています。川で化石がとれるという場所は無いので、周辺地域の子供が興味を持って遊びに来てくれるといいなと思います。

委員 プロモーションビデオということで作られていますが、今後継続してどのように使われるかが大切だと思います。今後、どのように使われる計画か教えていただきたいです。

説明者 今回の動画は瑞浪市の魅力を全て照会するというものではなく、まずは注目される動画ということで作成しました。これを基に派生していくなど、知っていただけるきっかけとなればよいと考えています。

事務局 補足説明となりますが、今回のワークショップ開催にあたってはホームページやチラシで案内し、興味を持っていただけるよう記載内容を検討しました。また、若い人に入っていたきたいということがありましたので、各学校に伺って直接案内することで多くの方に集まっていただきました。

委員 ワークショップについて、活発な意見があったのかなど様子を教えていただけないでしょうか。

参加市民 最初は世代が分かれているというのもあって打ち解けるのに少し時間がかかりましたが、話し合いを始めると活気が湧いてきて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

5) グループワーク

事務局 これより、グループワークに移ります。まずは2グループに分かれていただき、それぞれ個人で取組状況について思ったことや感想、特に評価すべき点などを付箋にご記入ください。その後、グループで皆さんの意見を共有してください。では、まず各自付箋にご記入ください。時間は5分間とります。

＜委員ごとに意見を記入＞

事務局 これより、ご記入いただいた付箋の内容を発表しつつ、模造紙の半分に貼っていただき、意見交換をお願いします。皆で話していて新たに思ったことなどがあれば付箋に書き足してください。

<グループ内で意見交換>

1 グループ	2 グループ
・動画は続きがあるといいと思う ・若者は知っていたのに、自分は動画を制作していることすら知らなかった ・市民にどの程度認知されたか ・もっと子供が知るといい ・高校生は瑞浪市民だったのか ・知っている人がわかる場所なので、もう少し場所のヒントが必要だった ・パレオパラドキシアがメジャーになった ・パレオパラドキシアの東濃弁は親しみが持てた ・「やるじゃん」と思った ・斬新な内容でした ・ラップ調ののりが良かった ・瑞浪と化石のマッチングはよかった ・化石のPRが充分できた ・奇跡の化石というフレーズはなじみやすかった ・将来の瑞浪を考えた映画 ・瑞浪の独自の魅力を伝える ・年齢、地域をこえて交流できて良い ・参加したいと思ってくれたことがよかった ・若者が参加し活躍した ・外で評価された理由は何か ・これからどうアピールしていくのが課題だと思う	・尖ったものを作ったのは良かった ・高校生が自分のアイデアを出して形にできたのは良かった ・市民にスキルが身につくようなやり方がいいのでは ・参加者がストーリーづくりを学ぶことができたのは良かった ・駅を活用し駅周囲ににぎやかにしたい ・これで市民のシビックプライドが向上したのかアンケート等検証した方が良い ・参加したかったので、もっと宣伝、PRしてほしかった ・若い人は市のHPを見ていない人が多いため知らない ・市民への周知、認知がまだ弱い ・啓発の仕方はどのようにするとよいか ・パレオパラドキシアを今後PRしていきたい ・費用対効果はどうか、何が残るのかやや疑問 ・市長にかぶって踊ってもらえると良い ・かぶりものを博物館に置いて、誰でもかぶって踊れるようにしてはどうか ・DVDを作成して地区での動画公開は可能か ・高齢者の視聴方策は考えたか ・ホームページやY o u T u b e 以外の公開はどの程度されたか ・動画時間としては長い ・化石をPRポイントにしての動画はわかりやすい ・化石検定を中高生へ広めてほしい（おもしろい企画である） ・移住相談者の動画認知度はどうか ・各種関係団体に出向いてPRしたか ・若者参加のワークショップであり、効果がある ・若い人のウケがイマイチ

事務局 続いて、改善点や不足している点を考えてください。市民、行政、それぞれの役割、できることを考えて改善点や不足することを付箋に記入してください。その後、グループで皆さんの意見を共有してください。まずは時間を5分間とります。

<委員ごとに意見を記入>

事務局 それでは、先ほどと同様に意見交換をお願いします。

<グループ内で意見交換>

○行政側

1 グループ	2 グループ
・化石以外に瑞浪をPRするものは他にあるかもしれないので検討した方が良い ・学校への案内（出張授業など） ・動画の認知度が課題 ・市民へのPR不足ではないか ・もっと瑞浪市で広報する必要あり ・知らない層の把握が必要 ・次の作品への予算はどうか、今後も継続してほしい ・パレオパラドキシアの認知度向上方策 ・化石博物館の来館者は増えたか ・市民が参加しやすい取り組みが必要 ・次のステップは何をするのか ・続きを考える場をつくる ・高齢者の反応が気になる	・今後の動画PRの方法の検証 ・化石に留まることなく瑞浪市のPRをこの動画からどう繋げていくか ・周知が課題 ・パレオパラドキシアをPRしていくことのインパクトがやや弱くないか ・啓発方法はどうかだったか ・ターゲットを年代層に合わせて考えていく必要はないか ・インスタ、T i k T o kなどを使い、短い動画にする ・若い人への周知が鍵となる

○市民側

1 グループ	2 グループ
・市民の出演をもう少し多くするとよい ・主体的に関わる ・感想を市に伝える（応援する） ・もっと市民に動画をPRすべき	・市民認知度の検証、特に高齢者について ・募集されたことを知らない ・危機感のなさが課題 ・PRすべき中身は何か、市外の人に何をしてほしいのか ・「瑞浪愛」が必要なのか、「地域愛」が必要なのか ・継続的に関心が持てる方法はないか ・市民の関心はどこにあるか ・たくさんの人に語り伝えていく

事務局 ありがとうございます。最後に、全体評価になります。

まず、全体評価についてグループで意見交換をしていただき、最後にこれまでのグループワークをふまえ、各自５段階で評価していただきます。意見交換で出た意見等は、模造紙の余白に書き込んでいただいて大丈夫です。意見交換の時間は１０分とります。では、お願いします。

委員 質問ですが、この事業はこれで終了ということか、これからも続けていくものか、どういったものでしょうか。

説明者 動画の製作は終了しましたが、これを今後どのようにＰＲに繋げていくかというＰＲ事業は行っていく予定です。

<意見交換、評価>

○意見交換で出された意見（まとめ）

- ・市民参加型でノリも良く、化石という１つのテーマ・魅力に絞った結果、斬新な動画を制作できた点や若者のアイデアをインパクトあるカタチで表現し、他と一線を画す事業となったのは良かった。
- ・動画を制作していることすら知らない方もあり、市民への制作周知に課題がある。その結果、市民の参加も限定的であり、制作した動画自体の周知についてもターゲット層であるはずの学校をはじめ、市民へのＰＲ不足といったことが懸念される。
- ・動画の続きも含めた出口戦略について、将来を見据えて継続するのか否か検討すべき。動画でモチーフとなったパレオパラドキシアの認知度向上やそれに伴った化石博物館等のコンテンツへの誘客について、せっかく作った被り物を活用するなど、動画をどのような事柄に繋げていくのか明確にする必要性がある。さらには、シビックプライドの向上に繋がっているか、費用対効果があったと言えるか等の効果検証を行っていただきたい。

事務局 ありがとうございます。それでは、みなさまの評価の平均を本事業の評価とさせていただきます。グループワークで出た意見、全体評価については、事務局で取りまとめさせていただきます、次回の会議で確認いただきます。

以上で、シティプロモーション動画等制作事業の検証を終了させていただきます。

会長 皆様、活発な意見を出していただきありがとうございました。これまでどのように行っていたかわかりませんが、今回のような形でのグループワークでの検証は、皆さん意見が出てよかったと思います。ありがとうございました。これで議事を終了しますので、進行を事務局にお返しします。

３．地域計画発表会について

事務局 長時間にわたり、熱心にご検討をいただきありがとうございました。続いて、３．地域計画発表会について事務局よりご案内いたします。

今年度、市内８地区で地域計画を策定しております。各地区の皆さんに話し合っていて、何が自分たちの地域では必要なのか、１０年後どういった地域がよいのかを話し合っていていただき、それに向かって地域として何ができるかを取りまとめていただき、地域計画としてまとめている最中です。

各8地区の計画書が出来上がりつつありますが、こちらの発表会を2月27日（火）午後7時より瑞浪市総合文化センター3階の講堂で行わせていただきます。

こちらの事業につきましては、もう一つの行政提案ということで検証して頂く事業としてお願いしております。今年度で地域計画を策定する予定となっておりますので、来年度5月頃に本日のような形で検証いただきたいと思います。大変恐縮ですが、この発表会に出席いただくと地域の策定経過などがわかるかと思っておりますので、委員の皆様におかれましてはどうか参加いただければと思います。

4. 閉会のことば

事務局 最後に、まちづくり推進部長の小木曾より閉会のごあいさつを申し上げます。

部 長 皆様、本日はしっかり検証していただきありがとうございました。

検証項目が4つあるうちのひとつが今回終わったことになります。先ほど委員長の方から、今までどうだったかという話がありましたが、実は以前はコロナ渦ということで会議ができるかどうかという状況でした。発言自体ができない状況下でワークショップなどは行えない状況であり、一方的に市役所の方から説明し、話し合いができない状況でした。参加いただいた委員の皆様には意見が言いにくい環境ということで大変申し訳なく思っておりますが、今日ワークショップをやってみて、皆さん意見が言いやすそうであり、これが本来の姿ではないかと思います。

あと3回ございますが、皆様にはどんどん意見を言っていて、評価いただければと思います。本日は誠にありがとうございました。